

## 2025 年度 決算について

2025 年度は、収入面では、学生生徒等納付金収入や補助金収入の増加に加え、キャンパス整備に係る寄付金収入の増収等により、予算額を上回りました。

支出面では、光熱水費や奨学費等の増加に伴い、教育研究経費支出は予算より 59,896 千円増の 1,948,796 千円となりました。一方、人件費支出及び管理経費支出および設備関係支出は、いずれも予算を下回りました。

また、施設関係支出については、本校地北側土地の取得、飛翔館建築工事、臨床薬学教育研究センター改修工事、入退管理システム更新ならびに学内 Wi-Fi 更新等の実施により、予算額を上回りました。

### ○ 資金収支計算書

#### (1)収入の部

学生生徒等納付金収入は、予想よりも学生数が多かったことにより 4,395,495 千円となりました。補助金収入は修学支援新制度の対象者が増加したことにより予算額を上回り、寄付金収入においては、キャンパス整備への寄付金が増加したことにより、全体的に予算を上回っています。

資産売却収入は、事業債等の満期償還、投資信託の売却、ユーロ債の一部売却分です。

そのほか、雑収入は職員の退職により、退職金財団からの交付金収入が増え、予算額を大きく上回りました。

#### (2)支出の部

人件費支出は、予算額を下回り 1,965,607 千円となりました。教育研究経費は、予算を上回り 1,948,796 千円、管理経費については予算額を下回り、398,164 千円となりました。

施設関係支出では、本校地北側の土地の取得、飛翔館の建築工事費用や臨床薬学教育研究センターの改修工事、入退管理システムの更新、学内 Wi-Fi のリプレイス等により、予算額を上回りました。

設備関係支出については、飛翔館建築に伴う機器等の購入費が予定より少なくなったため、予算額を下回り、383,836 千円となりました。資産運用支出は、予定していなかった、特定資産間での組替を行ったため、予算よりも大幅に増加し 9,630,608 千円となりました。以上により、翌年度繰越支払資金は、4,756,382 千円となりました。

### ○ 事業活動収支計算書

#### (1)教育活動収支

「教育活動収支」は、学校法人の本業である教育研究事業の収支を表しています。学生生徒等納付金収入（4,395,495 千円）の経常収入（5,658,405 千円）に占める割合（学生生徒等納付金比率）は 77.7% で、補助金収入（604,440 千円）の経常収入に占める割合 10.7%（経常費補助金比率）と合わせると 88.4%となり、本学の収入の大部分を占めています。

教育活動収支における事業活動支出においては、人件費（2,082,836 千円）の経常収入に占める割合（人件費比率）は 36.8%です。また、教育研究経費は 2,492,492 千円となり、経常収入に占める割合（教育研究経費比率）は 44%となりました。

#### (2)教育活動外収支

「教育活動外収支」は、経常的収支のうち教育活動以外の収支で主に財務活動の収支を表しています。

本学は、債券、投資信託、定期預金等の受取利息・配当金収入のみで、教育活動外収支差額は 216,256

千円となりました。経常収支差額（教育活動収支差額+教育活動外収支差額）は 604,395 千円となり、経常収支差額比率（経常収入に占める経常収支差額の割合）は 10.7%となりました。

#### (3)特別収支

「特別収支」（特殊な要因によって一時的に発生した臨時的な収支）の特別収支差額（特別収入－特別支出）は、△385,250 千円となりました。

#### (4)事業活動収支差額比率

事業活動収入は 5,761,768 千円、事業活動支出 5,542,622 千円となり、基本金組入前当年度収支差額は、219,145 千円、事業活動収支差額比率（事業活動収入に占める基本金組入前当年度収支差額の割合）は 3.8%となりました。

#### (5)基本金の組入れと翌年度繰越収支差額

飛翔館建築に係る費用を第 2 号基本金から第 1 号基本金に振替え、第 3 号基本金のうち奨学基金に 6,829 千円を組入れるなど、計 103,576 千円を組入れました。この結果、当年度収支差額は 115,569 千円となり、前年度からの収入超過額 1,194,298 千円を加え、翌年度繰越収支差額は 1,309,868 千円となりました。

### ○ 貸借対照表

#### (1)資産の部

有形固定資産は、飛翔館建築等に係る資産が増加したことにより、前年比 3,073,115 千円増の 15,069,741 千円、特定資産は、第 2 号基本金を第 1 号基本金に振替えたことなどにより、前年比 3,137,707 千円減の 20,285,123 千円となりました。また、流動資産は、前年比 608,372 千円増の 5,014,011 千円となり、その結果、資産の部合計は、前年比 605,889 千円増の 40,525,933 千円となりました。

#### (2)負債の部

負債のうち、固定負債 898,062 千円は、退職給与引当金及び長期未払金を計上しています。流動負債 1,245,542 千円は、未払金、前受金、預り金、賞与引当金を計上しています。この結果、負債の部合計は 2,143,605 千円となりました。

#### (3)純資産の部

基本金 103,576 千円を組入れ、基本金の合計は、37,072,460 千円となりました。繰越収支差額は、1,309,868 千円となり、その結果、純資産の部合計は、前年比 219,145 千円増の 38,382,328 千円となりました。

### ○財務状況の分析

事業活動収支決算においては、収入・支出ともに予算を大きく上回りました。

特別収支差額は、採算性の低い有価証券・特定金銭信託を売却したこと等により、385,250 千円減少しました。一方、経常収支差額は 428,795 千円増加しており、全体としての影響は限定的でした。この結果、基本金組入前当年度収支差額は 219,145 千円となり事業活動収支差額比率は 3.8%となりました。

また、基本金については、組入額は 103,576 千円となり、当年度収支差額は 115,569 千円の収入超過となりました。

## ○財務上の課題、今後の方針・対応方策

本学は、株式会社格付投資情報センター（R & I）による格付「AA－（ダブルAマイナス）」を2004年度以降継続して取得しており、2025年度も同格付を維持しました。薬学部の人気低迷が課題として健在する中、薬剤師国家試験の高い合格率や、私立大学薬学部においてトップクラスの就職率を維持していることなどが評価され、引続き「AA－」を維持しています。

2026年度の事業計画および予算方針については、学生が安心して大学で学修に取り組める学修環境の整備を中心に進めていきます。さらに、ST比（教員一人当たりの学生数）の改善を一層進め、教育力の向上を図るとともに、京薬会を通じて企業・病院・薬局等で活躍する卒業生との連携を強化し、優秀な「薬学人財」を育成することにより、社会への貢献を一層推進します。また、インフレの進行による資産価値の目減りのリスクも踏まえ、寄附事業の拡大および資産運用の強化を図るとともに、外部資金の獲得にも引き続き注力していきます。